



松戸市立博物館 館蔵資料展 「古文書からさぐる大谷口の村」を開催

江戸時代、いまの松戸市域には50を超える村がありました。村は人びとの生活の場であるとともに、領主が領民を把握するための支配の単位でした。村の運営を担ったのが、名主・組頭・百姓代なぬし くみがしら ひゃくしょうだいの三役人です。

市北部の大谷口村で名主を務めた大熊家おおくまに伝わった古文書こもんじょは、領主からの命令の伝達・さまざまな出来事の解決など、村役人の多様な仕事ぶりを今に伝えてくれます。村役人のなかには、10代目大熊伊兵衛おおくまいへえのように領主の家臣(=武士)となり力を発揮する人物もいました。

また大熊家には、大谷口村の人びとの信仰を伝える古文書も数多く残されています。さまざまな民間信仰や遠方への寺社参りからは、一つの村を越えて広がる村人たちのネットワークを垣間見ることできます。

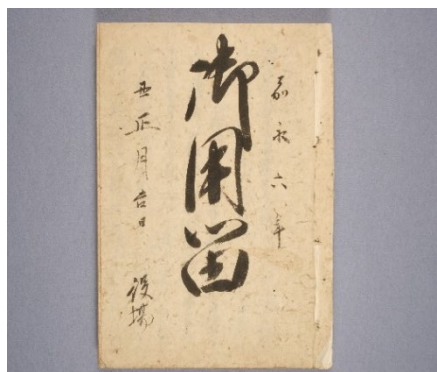
本展示では、大熊家文書を通じて、江戸時代をたくましく生きた村人たちの足跡を紹介します。

- 会 期 令和6年7月13日(土)～8月25日(日)
- 休 館 日 月曜日、なお7月15日、8月12日は開館
(7月16日、8月13日、8月23日は休館)
- 開館時間 9時30分～17時(入館は16時30分まで)
- 会 場 松戸市立博物館 企画展示室(松戸市千駄堀671)
- 観 覧 料 無料

プレス用内覧会 令和6年7月12日(金)14時～16時



〔下総国大谷口城絵図〕(享保15[1715]年)
(しもうさのくにおおやぐちじょうえず)



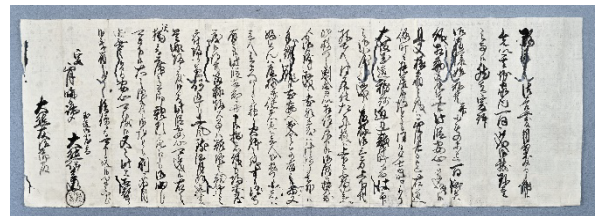
御用留(嘉永6[1853]年)
(ごようどめ)



やさシティ、まつど。
matsudo



諸向御用留（万延2[1861]年）
（しょむきごようどめ）



〔書状〕（長州再征時の大坂玉造小屋の様子について）（慶応2[1866]年正月）



上州草津温泉之図（江戸時代）
（じょうしゅうくさつおんせんのみづ）
19 世紀後半



大谷口神明神社の百庚申
（おおやぐちしんめいじんじやのひやくこうしん）
19 世紀後半

●関連企画

学芸員講演会「古文書からさぐる大谷口村」（博物館友の会共催）〈要申込〉

日時 令和6年7月21日（日）13時～15時

会場 松戸市立博物館講堂

講師 当館学芸員 富澤 達三（とみざわ たつぞう）

定員 75人（応募多数の場合は、抽選）

申込方法 7月8日（月）までに同館ホームページまたは往復はがき（1人1枚）

に郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・電話番号・返信用宛名を記入して、

〒270-2252 松戸市千駄堀671

市立博物館「7月21日学芸員講演会」係へ



やさシティ、まつど。
matsudo

【本件に関する問い合わせ先】

〒270-2252 松戸市千駄堀671

松戸市生涯学習部文化財保存活用課博物館（月曜休館）

☎047-384-8272 FAX047-384-8194

✉ mchakubutsukan@city.matsudo.chiba.jp